

【前序】

【I】建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色

1. 建学の精神と大学の基本理念

兵庫大学の「建学の精神」は、学校法人睦学園の「建学の精神」と歩みを共にしている。

本学園は、大正 10 (1921) 年、神戸市須磨の地に、聖徳太子薨去 1300 年祭にあたり、聖徳太子の「和」の精神を信奉する情操教育を施す目的のもと、仏教の日曜学校としての『太子日曜学校』を設立したことに始まる。

その後大正 15 (1926) 年に「須磨幼稚園」を設立、昭和 12 (1937) 年に「須磨睦高等実践女学校」を設立し、のち「須磨ノ浦高等女学校」へ改編。そして、戦後の学制改革に伴い、「須磨ノ浦新制中学校」、「須磨ノ浦女子高等学校」を設置、昭和 30 (1955) 年には「睦学園女子短期大学」を設置した。その後、須磨キャンパスが狭あいとなったため、昭和 41 (1966) 年、学園創立 40 周年の記念事業として、短期大学を加古川キャンパスに移転、校名を「兵庫女子短期大学」と改称。そして平成 7 (1995) 年に加古川キャンパスに「兵庫大学」を設置した。

本学園の「建学の精神」は、『聖徳太子の御徳を慕い、その 17 条の憲法に示された「和」を根本の精神として仰ぎ、仏教主義に基づく情操教育を行い、有為の人材を養成することを目的とする』ことにある。すなわち、「和を以って貴しと為し、さからうことなきを宗とす」、という聖徳太子の 17 条憲法の第 1 条に示されている「和」の精神こそ、本学園の「基本理念」なのである（写真 1）。本学園の名称である「睦」も、そこに由来している。「睦」の原意は、親しみ相和すことであり、つつしみて和らぐことである。そして、本学の教育・運営面は、「睦」の精神を実践理念として行っている。

また本学園は、浄土真宗本願寺派（西本願寺）の宗門関係学校（大学法人 7、短大法人 2、高校法人 17、計 26 法人で構成）でもある。

（写真 1）



さらに、「建学の精神」であるこの「和」を一步深く味読すれば、表面的な“やわらぐ”“むつむ”“おだやか”という争いや戦いと反する方向性のみならず、感謝・寛容・互譲といった心情を内蔵している。そのため、「建学の精神及び大学の基本理念」を、より具現化するために、学園創立 80 周年を機に、本学園に関わる人々を始め、教職員の行動規範として「感謝（生かされる心）、寛容（信じあう心）、互譲（たすけあう心）」を「学園訓」に定めている。

本学は平成 22 (2010) 年に設置 15 周年を迎えた。本学園の「建学の精神」に基づく例として、本学園では入学式や卒業式など重要な節目となる行事は、仏教の音楽法要様式にて行われることが挙げられる。仏式の音楽法要様式という、静ひつな中にも穏やかな、そして温もりある一体感、柔らかな雰囲気をもった式を行っている。

また、6 月 10 日の創立記念日には、進睦^{しんぼくろくてん}610 会と称した全学園を挙げた教職員の交流会が毎年行われる。

そして、「建学の精神及び大学の基本理念」を常に再確認し、具現化へ向けて創意工夫するため、「成道会フォーラム」が行われ、本学が中心となって毎年 12 月に睦学園併設校が集っている。各学校の行事や宗教教育の問題点などを話し合い、互いにチェックし合い、それぞれの相違点も認め合いつつ、共通の理念を実現していこうとするための場を設けている。

本学の「施設の様式」にも「建学の精神と大学の基本理念」が表現されている。まず学園併設校共通の特徴として「四天の門」(写真 2)がある。古来、仏教には東南西北の四つの方向にそれぞれ持国天・増長天・広目天・多聞天がましまして、理想の国を守護するという思想があった。本学の特徴的な「四天の門」も、その思想に由来するものである。

(写真 2)



2. 使命、目的

「使命」

本学では、前述の建学の精神に基づき、教養教育と専門教育を実践することにより、「人間形成」と「人材育成」という二大テーマの実現を目指し、ひいては「全人教育(知・情・意のバランスがとれた人格発達への支援)」を理想とし、社会に貢献できる人材を送り出すことこそ高等教育機関である本学が果たすべき使命だと認識している。

まず「人間形成」という視点であるが、専門知識の提供に偏りがちな大学教育において、このような「人間形成」という方向性を大切にするのも、本学が仏教主義に基づく情操教育を基盤としているためである。

また、「知育」に比して、とかく軽視されがちなのが「徳育(情操教育)」である。そこで、これを「和」の精神を指導理念として補強し強化する、これが本学の「人間形成」の基本方針であり、そのような人材を育成することこそ本学が果たすべき「使命」とであると

自認している。

その「人材育成」に関してであるが、本学の学部・学科構成（p.13 参照）に表れているように、本学は実学志向が強く、各専門における資格取得を目的とする学生も多い。“実社会の即戦力となる人材”“地域社会に貢献できる実務的人材”を輩出することを目指した大学である。

「目的」

本学の「目的」は、「兵庫大学学則」に明文化されている。すなわち、「本学園創立の根本理念たる『睦』の精神を育む仏教主義に基づく大学として、教育基本法及び学校教育法に則り、専門の学芸を教授研究するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、併せて有為の人材を養成することを目的とする」ことにある。

また、本学では“知・情・意のバランスがとれた人格発達への支援”を「全人教育」と捉え、本学教育の「目的」として位置づけている。そのため、単なる受身の授業に終始することなく、教員と学生が双方向的にやりとりをする姿勢を重要視している。教員と学生とが共に授業を創造する、そしてそのためのシステムを職員が支える、そのような構造の構築を志向している。

特に本学は実学教育の充実を目指しているので、学生自らが体験し自らが思考し自らが実行しなければならない場面に数多く直面することとなる。その際、単なるスキルの獲得だけでなく、情緒や感情や利他精神の発達を促す教育を理想としているのである。そして、この姿勢は、決して実学的教育・専門教育だけに限ったことではなく、教養教育にも適用されている。本学が目指す「全人教育」では、初年次教育や教養教育の充実は重要な要素である。

また、本学の「目的」に欠かせないのが宗教教育である。すでに現代社会における価値観の混迷は深刻な状況に陥っている。それは決して“価値観が多様”と表現されるべき事態ではなく、“規範が揺らぎ情報に操作されている”と分析すべき状況だと言えよう。

明確な価値観・方向性を提示することは私立学校教育における生命線である。宗教教育に関する様々な取り組みは、その姿勢を表現している。その点において、本学の教育・運営の方向性は明確である。

しかし、本学においては特定の宗教や宗派が強要されたり、特定の思想方向へと強く誘導されるようなことはない。本学自身の教育理念として仏教思想を基盤としているのであって、学生・教員・職員などの“信仰の自由”は保障・尊重されている。本学では、伝道と教育は相違するという明確な線引きをもっている。

3. 大学の個性、特色等

本学の個性・特色は本学園創立の根本理念である「和」の精神、つまり「睦」の精神を育む仏教主義に基づく情操教育を実践するところにある。知・情・意のバランスがとれた人間形成と人材育成を目指した専門教育と宗教教育と教養教育を平行に進める全人教育こそ、本学の姿勢である。

そのため、「自己と他者」「社会性」を学ぶ場として、さまざまな創意工夫が建学以来実践されてきた。実学志向や、利他精神の醸成もその表れである。教員の教育活動に関す

る説明責任と、学生の主体的参加を促す学習活動の双方向性も試行錯誤の結果である。地域に根ざした大学、地元密着の大学を目指すのもその表明である。

そして、本学の学部構成は、経済、情報、健康、福祉など、社会生活の営みに直結する側面を重視する傾向にある。これも、自己と他者について深く学び、さらにはそれを取り巻く関係性に気づいていく教育を志向しているためである。

また、学生自らができるだけ早い時期に専門分野における学習や実践を強化することが可能になるよう、初年度から学生の進路を視野に入れた指導を強化しているところも本学の長である。

4. 本学の目指す大学像

本学の目指す大学像は、学内における「研究システム」や「教育システム」の充実、そして学外・社会との深いつながりと連携、この両面が機能している大学である。

研究と教育は、すべての大学における両輪である。本学では、教員と職員と学生が密接な連携をとることによって、研究と教育のより良きシステム創りを目指し、うまずたゆまず常に改良を続けている。附属総合科学研究所、情報メディアセンター、生涯福祉教育センター、実践食育研究センターなどの機能も、研究や教育をシステムで支えるための取り組みである。

一方、学外・社会との深いつながりという面においては、公開講座と科目等履修生制度という制度を設け、生涯にわたって学習可能な大学を目指している。本学がある加古川市、そして隣接する高砂市・稲美町・播磨町、この東播磨地域2市2町には本学以外に高等教育機関がない。そのため本学は「地域の生涯学習機会の拠点」と位置づけることを大学の基本目的としている。特に「教育・研究の成果を地域へと還元する」「地域との連携・インターンシップ」「地域からの情報や人材受容」といった双方向的交流の積極的な推進を目指している。

本学では早くから「公開講座の開設」「生涯学習の支援」「社会人入学者の受け入れ」「産学協同（産官学協同）」に取り組んできた。しかし、まだまだ大学から地域社会への一方的流れに偏りがちであるのではないかという自己分析の結果、「地域の生涯学習機会の拠点」という目的のもと、本学と地域社会とのリソースを双方向的に活用する方針を強化することにした。これも後述の各項目において詳述されているが、「東播磨生活創造センター『かこむ』への事業参加」「地域密着型のリーダー育成を促進するための『インターンシップ』の推進」など、現在では多方面にわたっての関係性を大切にするように努めている。